

親の役割 ～子供の自立に向けて～

【プログラムのねらい】

子供が自立するまでには、長い年月をかけて様々なことを何度も繰り返し教えることが必要です。子供が成長するにつれて、子供への対応は変化していきます。今の子供への対応は、子供の育ちに合ったものでしょうか？

【プログラムの展開例】（時間 60 分程度）

| | ○進め方 ◎ことばかけ | 留意点 |
|-----------|---|--|
| 導入 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介をします。 ○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。 ○自己紹介やゲームを行い、緊張を和らげたり、参加しやすい雰囲気づくりをしたりします。 | <ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な話し方を心がけます。 ○今日のプログラムのねらいについて、ポイントをしぼりわかりやすく説明します。 ○参加者に気を配り、ゲームに参加できていない人や戸惑っている人には、明るく声かけをして参加を促します。 ○ゲームなどが終わるまでに、次の活動にスムーズに移れるようにグルーピングしておきます。 ○1グループにつき5～6人（全体の人数が少ない場合は3～4人）を目安に編成します。 ○導入で時間を取りすぎると展開やまとめの時間が少なくなります。あらかじめ時間配分を考えて進めていくようにします。 |
| 展開 40分 | <ul style="list-style-type: none"> ○「ワーク1」の活動を説明します。 ◎エピソードを読んでみましょう。 ◎①について考えてみましょう。忘れ物の中身や、子供の年齢や性格によって、親の対応が変わってくることもあるでしょう。例えば、忘れると自分が困るだけなのか、周囲に迷惑をかけるのか、本来できてよい年齢なのか、など……。 | <ul style="list-style-type: none"> ○幼児の保護者には、幼児向けエピソードを使用します。 ○わが子の育ちに留意するよう助言します。 ○忘れ物によっては、授業に影響が出ることにも言及します。 |

| | | |
|--------------------|---|---|
| | <p>○「ワーク2」の活動を説明します。</p> <p>◎①については、考えてみましょう。今すでに身に付いていることはどんなことでしょうか？また、どのようなことを、いつ頃に身に付けてほしいと思いますか？</p> | <p>○①では、年齢や発達段階を考慮する必要があることに触れます。</p> <p>※対象となる子供の育ちに応じて、チェックリストの内容を取捨選択したり、追加したりすることも可能です。</p> <p>○子供の育ちに合わせながら、徐々に自立できるよう指導していくよう助言します。</p> <p>○一緒にやったり、親がお手本を見せたりすることが有効であることを助言します。</p> |
| <p>まとめ 10分</p> | <p>◎今日の学習を振り返ってみましょう。子育てに生かせるヒントや工夫を見つけられましたか？また、気付いたことや感想をお聞かせください。</p> <p>○参加者一人一人に今日の学習を通して考えたことや感想を書いてもらいます。 (ふりかえり)</p> <p>○発表してもらいます。</p> | <p>○今日の学習を振り返り、特に印象に残ったことを中心に書くように話します。</p> <p>○あらかじめ、数人の方に感想を発表してもらうようお願いしておきます。</p> <p>○発表を共感的に受け止め、発表に対して手短かにコメントします。</p> <p>※乳幼児を持つ保護者対象の講座の場合は、小1プロブレムにもふれながら、まとめるようにするとよいです。</p> |

※ 設定時間が短い場合には、ワーク2を中心に流れを考えるようにします。

幼稚園児（保育園児）の保護者向けエピソード

さやちゃんの幼稚園では、登園した際、通園バッグからコップとタオルを出して、決められた場所にかけることになっています。けさ、さやちゃんは、コップとタオルを通園バッグの中に見つけれず、先生に「忘れました。」と伝えました。そこで、先生は、幼稚園のコップとタオルを貸してあげました。

帰る時、先生はお母さんに、「今日は、コップとタオルを忘れたそうなので、幼稚園の物を貸しました。」と話すと、お母さんは、「おかしいですね。ちゃんと通園バッグに入れたのに……。」先生とお母さんが、さやちゃんの通園バッグを確かめてみると……、底の方からコップとタオルが出てきたのです。このようなことが、さやちゃんには時々あります。

お母さんは、「どうして自分で見つけれないのかしら？」と思案顔です。